

事務局報告

第41回(2008年度第3回)幹事会議事要録

日時:2008年4月19日(土)13:30~17:00

場所:名古屋大学文学部考古学リテラチャーラボ

出席者:南木会長,守田事務局長,那須庶務幹事,工藤会計幹事,佐々木(由)広報・渉外幹事,能城編集委員長,大井編集副委員長,山本行事委員長,佐々木(尚)行事副委員長

報告事項

1. 会員動向:新入会員2名,退会者5名が報告された。現在の会員数は名誉会員3名,賛助会員1社,一般会員370名,学生会員29名,団体会員8団体(2008年4月19日現在)。
2. 植生史研究の編集状況:第16巻1号が刷り上がり,4月中に発送することが報告された。第16巻2号については現在査読中1本,準備中の論文が2本のみで,会員の積極的な投稿を促す必要がある。
3. 庶務:学術著作権協会との「著作物複写利用に関わる著作権権利委託契約」が完了したことが報告された。
4. 第22回大会の報告:参加人数,発表件数,会計についての最終報告があり,運営についての反省点も報告された。特に一般研究発表について,会員の積極的な発表を促す必要があることが挙げられた。

審議事項

1. 第23回大会(2008年度,福島大会):巡検地,会場,シンポジウム内容等について審議を行った。巡検候補地として猪苗代湖の埋没林,赤井谷地が挙げられた。会場は飯坂温泉が福島大学での開催を提案することにした。シンポジウムは,「湿原の形成過程」,「福島の植生史研究」,「氷期から完新世への環境変動と人類」の3案が出され,5月末日までに決定することにした。
2. 第24回大会(2009年度,熊本大会):大会実行委員長に熊本大学の小畑弘己氏,実行委員に森林総合研究所九州支所の宮縁育夫氏を推薦した。山本行事委員長と佐々木(尚)行事副委員長も実行委員に加わることにした。
3. 第27回談話会「漆にかぶれよう」:募集人数を20名程度にし,中型バスを借り切って移動することにした。早急に詳細を決定し,5月末のニュースレターで募集案内を出す。
4. 第28回談話会「花粉分析集中講座」:2008年8月29・30・31日の2泊3日で実施することにした。場所は岡山理科大学。世話人・講師は,守田益宗氏。定員は8名,会費は昼食代を含めて4000円程度を予定している。5月末発行のニュースレターで募集案内を出す。

5. 会費滞納者への対応:2005~2008年度分未納の会費滞納者に会費請求の手紙を送付したが,21名から返答がなかったため,16巻1号からの会誌発送を停止し,再度手紙にて会費納入を促がすことにした。
6. 投稿規程の改訂:植生史研究投稿規程の改訂内容を審議し,2008年4月19日付で改訂することにした。今回の大きな改訂点は,ウェブページの引用や電子ファイルでの投稿を認めるようにしたことである。
7. 学会費の改正:学会運営事務の負担軽減にあたって事務委託費用を確保するため,学会費の値上げを検討した。原案を8月末までにまとめ,評議員に検討してもらうことにした。
8. HP,メールのサーバー契約:現行のサーバーで契約を継続することにした。ただし,学会メールアドレスへの迷惑メールが膨大であるため,迷惑メール防止機能,メーリングリスト設定機能もある新しいサーバーを継続して模索する。
9. メーリングリストによるニュースレター配信:会員への学会登録メールアドレスを確認していただく案内を,次回5月末発行予定のニュースレターに掲載する。経費削減の一環として来年度よりニュースレターを電子化し,メーリングリストで配信するようにするため。
10. 大阪府の博物館施設「見直し」に対する要望書への対応:学会としての参加を検討したが,このような案件は評議員会で決議する必要がある,今回は締切りを過ぎているために見送りとなった。
11. プライバシーポリシーの策定:個人情報を収集する際に(名簿作成時やメーリングリスト登録時),学会としての個人情報の取り扱いについて一文を掲載することにした。
12. IPC/IOPCの2012年日本招致:共催で進める方向で検討することにした。

第42回(2008年度第4回)幹事会議事要録

日時:2008年9月11日(土)13:30~17:00

場所:名古屋大学文学部考古学リテラチャーラボ

出席者:南木会長,守田事務局長,那須庶務幹事,工藤会計幹事,佐々木(由)広報・渉外幹事,能城編集委員長,大井編集副委員長,山本行事委員長,佐々木(尚)行事副委員長

報告事項

1. 会員動向:新入会員3名,退会者3名が報告された。現在の会員数は名誉会員3名,賛助会員1社,一般会

- 員 373 名, 学生会員 32 名, 団体会員 8 団体 (2008 年 9 月 11 日現在)。
- 植生史研究の編集状況: 第 16 巻 2 号について, 10 月中に発行予定であることが報告された。第 17 巻 1 号については現在査読中 2 本, 準備中の論文が 1 本のみで, 会員の積極的な投稿を促す必要がある。
 - 庶務: 同成社より植生史研究掲載資料 4 点についての転載許可申請があり, これを承諾したことが報告された。
 - 第 27 回談話会「漆にかぶれよう」報告: 12 名の参加があり, 盛況であったことが報告された。
 - 第 28 回談話会「花粉分析集中講座」報告: 5 名の参加があり, 盛況であったことが報告された。
 - IPC/IOPC の 2012 年日本招致: 2012 年の IPC/IOPC 日本開催が決定したことが報告された。

審議事項

- 第 23 回大会 (2008 年度, 福島大会): シンポジウム内容, 参加及び一般研究発表の申し込み等について審議した。
- 第 24 回大会 (2009 年度, 熊本大会): 次回大会までに日程を確定し, アナウンスすることにした。
- 総会: 総会で報告・審議する事項を確認した。
- 学会費の改正: 学会運営事務の負担軽減にあたって事務委託費用を確保するため, 学会費の改正案を再度審議した。幹事会案を次回評議員会および総会で提案することとした。
- 幹事会の開催回数: 事務費用削減にむけて幹事会の開催回数を削減する方向で継続審議することにした。
- 会費未納者への対応: 2005 ~ 2008 年度分未納の会費滞納者 11 名に再度請求の手紙を送付することにした。納入がない場合は, 次回評議員会で報告し総会で除名する。
- メーリングリスト: ニュースレターの PDF による配信に向けてメーリングリスト対応のサーバー契約について審議した。適当な業者と契約し, 早急に現行のサーバーから移行することにした。
- 論文 PDF の公開: 近年の論文 PDF 化に従い, 植生史研究掲載の論文も PDF で公開する案を審議した。過去 2 年よりも古いバックナンバーについては PDF で公開する方向で, 評議員会および総会での承認を得ることとした。
- 電子メールによる評議員会開催: 緊急に決定すべき事項を審議するため, 電子メールによる評議員会を開催できるように, 規定の改正案を提出することとした。

日本植生史学会第 23 回大会

第 23 回日本植生史学会大会を下記日程で開催します。

- ◆日時. 2008 年 11 月 15, 16 日 (土, 日)
- 15 日 (土): 公開シンポジウム, 懇親会

16 日 (日): 一般研究発表, ポスター発表, 総会
◆会場. パルセいいざか (福島市飯坂町字筑前 27-1, <http://www.paruse.jp/>)

◆主催: 日本植生史学会. 大会実行委員長: 木村勝彦. 実行委員: 大山幹成, 吉田明弘, 箱崎真隆, 山本直人, 佐々木尚子

◆費用 (会費はすべて当日徴収になります。金額はすべて予定です)。参加費: 一般会員・非会員 2000 円, 学生会員 1000 円 (要旨集代を含む), 懇親会費: 一般 5000 円, 学生会員 3000 円

◆宿泊. 飯坂温泉および JR 福島駅周辺に宿泊施設は多数ありますので, 各自, 早めにお申し込み下さい。飯坂温泉では, 下記のような宿がお手頃です。

- ・松島屋旅館 一泊朝食付き 9600 円 ~ TEL 024-542-3155

- ・前野屋旅館 素泊まり 3825 円 ~ TEL 024-542-2347

また, 会場周辺には鯖湖湯をはじめ多数の共同浴場 (料金 200 円) があります。飯坂温泉ならではの熱湯 (45°C ~) を体験したい方はぜひご利用下さい。飯坂線を利用すれば福島駅周辺のビジネスホテルにも宿泊可能です。

◆大会プログラム

○ 11 月 15 日 (土)

9:00 ~ 10:30 幹事会 (会議室)

11:00 ~ 12:30 評議員会 (会議室)

12:00 ~ 受付

13:00 ~ 17:00 公開シンポジウム

テーマ: 環境変動と人間活動による植生の形成を読み解く
オーガナイザー: 辻 誠一郎 (東京大学新領域創成科学研究科), 佐藤宏之 (東京大学人文社会系研究科)

趣旨: 20 世紀前半に解明された晩氷期以降の植生変遷は, 花粉分析という手法と花粉層序という地質学的方法論を用いた成果の一つであった。これらの方法や成果は, その後さまざまな変革を遂げながら, 今日の課題である環境変動と人間活動による生態系変動の解明にどのように貢献しているだろうか。このシンポジウムでは, 植生史研究の原点に立ち戻って, 方法論と成果の歴史を概観し, 大きく欠如していた高精度編年論を導入したり, 縄文時代以降の人為的生態系解読論の導入を, 主として関東から東北地方で展開された具体像を示すことで確かめたい。さらに考古学や民族学において求められる植生史研究とはどのようなものかも検討したい。

趣旨説明 辻 誠一郎

話題 1 花粉層序と植生史: 安 昭炫 (東京大学新領域創成科学研究科)

話題 2 更新世から完新世の環境変動とその編年: 工藤雄一郎 (名古屋大学年代測定総合研究センター)

話題3 縄文時代の植生史と人間活動：人為生態系の形成：

吉川昌伸（古代の森研究舎）

話題4 縄文時代中・後期の環境変動と人間活動：國木田

大（東京大学新領域創成科学研究科）

総合討論

（以下は予定です。個人発表申込み受け付け後、詳細なプログラムを作成し郵送します。）

17：30～19：30 懇親会

○11月16日（日）

9：30～ 受付

9：45～11：30 口頭発表

11：30～13：00 総会・昼食

13：00～14：30 ポスター発表

14：30～16：15 口頭発表

今石みぎわ（学生）

東北芸術工科大学大学院博士課程

奥野絵美（学生）

名古屋大学大学院文学研究科考古学研究室

箱崎真隆（学生）

東北大学大学院生命科学研究科

菅原可奈子（学生）

京都大学総合人間学部

仙波靖子（一般）

熊本大学埋蔵文化財調査室

会員動向（2008年3月～2008年9月）

新入会員

洞口正史（一般）

財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団

岡本泰典（一般）

岡山県古代吉備文化財センター

杉山浩平（一般）

東京大学農学部緑地創成学研究室

三川一秋（一般）

無所属

福田正宏（一般）

東北芸術工科大学芸術学部

吉田真弥（学生）

専修大学大学院文学研究科地理学専攻

異動会員

田中里枝 学生→一般

柳原梢子 学生→一般

退会会員

大谷勝己, 岸本 剛, 木部直美, 中田政司

第6期日本植生史学会役員

（任期：2007年10月1日～2010年度大会）

会 長：南木睦彦

評議員：鈴木三男, 高原 光, 辻 誠一郎, 百原 新, 山田昌久

幹 事：守田益宗（事務局長）, 那須浩郎（庶務）, 工藤雄一郎（会計）, 佐々木由香（広報・渉外）

編集委員会：能城修一（委員長）, 大井信夫（副委員長）

行事委員会：山本直人（委員長）, 佐々木尚子（副委員長）

査読者への謝辞

植生史研究第16巻に投稿された論文等は下記の方々に査読していただきました。記して御礼申し上げます。

小椋純一

叶内敦子

塚腰 実

能城修一

村上由美子

守田益宗

小畑弘己

鈴木三男

鳥居厚志

南木睦彦

百原 新